～宇宙祭２日前号～

Newspace

郡山東高校新聞
速報版９１号

編集・発行
郡山東高等学校新聞部
発行人　松本 優衣
編集人　渡邉 純礼
〒963-8832　福島県
郡山市山根町13-45
電話 024-932-0898

宇宙祭開幕まで残り２日！

↑アート部美術班が大体育館入り口に制作した歓迎アーチ

宇宙祭のシンボル 堂々完成へ

宇宙祭開幕まであと2日となった。宇宙祭のシンボルであるアーチがアート部美術班によって制作が進められ、完成間近に迫った。今日から、本番まで準備に時間を費やし、クラス企画や部活動企画の準備も進められている。

宇宙祭のシンボルであるアーチが美術班の手によって完成間近に迫った。例年であれば、アーチは校舎と紫苑館をつなぐ通路に掲げられる。しかし、今回の宇宙祭は新型コロナウイルスの影響で、一般公開を行うことができないため、大体育館入り口に飾られる。アーチは縦約3㍍、横約4㍍の大きさで、用務員の工藤さんが木材を組み立て、土台を作った。アーチ制作を行った美術班は、具体的な話し合いなどを含め、春休みから準備を進めてきた。実際に制作が始まったのは中間考査最終日の放課後からだった。そのためアーチ制作日数は約18日間だ。

アーチには「COSMOS FES 2021」と書かれている。アーチのデザインは栗田美月さん（3年）が案を出した。夏らしい爽やかな色合いと、宇宙を感じられる天の川が描かれている。

美術班部長の深谷美悠莉さん（2年）は「アーチが想像以上に大きくてとても大変だった。文字の部分はフリーハンドで書いているため、繊細な作業で制作するやりがいを感じた。天の川の部分などに工夫を凝らしている。全体的に大仕事だった」と制作での苦労を語った。「短い制作期間だったこともあり、文字や天の川の部分に入ったころは、部員の疲れが出てきていた。そのため、世界史の単語を叫んで疲れを和らげていた」と制作の大変さを思い出しながら話した。

美術部アート班はアーチ制作のほかに、個人制作を宇宙祭当日に美術室に展示する。（冬凜）

↑アーチの作成に取り組む美術部員

クラス企画 準備終盤に

いよいよ宇宙祭開催まで残り2日となった。全20クラスが自分たちの個性を活かした企画を考え、生徒たちは忙しい合間を縫って宇宙祭の準備を進めている。開閉祭式や有志発表、ステージ発表などのリハーサルも宇宙祭の準備と並行して、進められているため、生徒たちは与えられた貴重な時間を余すことなく使い、効率的に準備を進めることが求められる。

クラス企画は縁日やカジノなど様々な企画が満載で、どのクラスも来場者が楽しめるような内容になっている。クラス企画は主にそれぞれの教室や空き教室を使って行われる。各クラスを回ることで、それぞれの魅力を満喫することができる。クラス企画の縁日で射的を担当している森珠峰さん（1年）は「人が多く集まるような企画にしたい。宇宙祭実行委員に入っていて、大変だが、頑張りたい」と笑顔で意気込みを語った。同じく射的を担当している神山颯希さん（1年）は「ほかの出し物に負けないように凝ったものを作りたい」と宇宙祭へ向けて意気込んだ。（らいあ）

↑協力して壁に色紙を貼る２年生

↑クラス企画で黒板アートをする３年生

↑縁日の企画を工夫して作業する３年生

借り物競争 出場者決まる

宇宙祭開催まであと2日となった。今回のクラス対抗借り物競争は今月30日の開祭セレモニーの有志発表後に行われる。場所は晴天時の場合校内グラウンドで借り物競争を行い、雨天時の場合は大体育館で学校クイズを行う。借り物競争は各クラス代表者1人が出場する。ルールは、20人を3組に分けて競争し、中央のステージがゴールとなる。開催セレモニーでの服装は、クラスTシャツまたは衣装等の着用も可能である。大内結斗さん（2年）は「選ばれた理由がじゃんけんで、勝った人が出場するという話になり、まさか自分には来ないだろうと思っていたら勝ってしまった。運だけが取り柄なので、張り切って頑張りたい」と意気込みを語った。安田美夢さん（1年）は「一生懸命走り、1位を目指して頑張りたい。楽しく走りたい」と意気込んだ。（明平）

宇宙祭借り物競争出場者

番号	氏　名	よみがな
1年1組	安田　未夢	やすた　みゆ
1年2組	藤沼　千尋	ふじぬま　ちひろ
1年3組	生田目　孝太	なまため　こうた
1年4組	佐藤　空翔	さとう　そらと
1年5組	星　うらら	ほし　うらら
1年6組	野田　龍成	のだ　りゅうせい
2年1組	安部　雪慧	あべ　ゆきえ
2年2組	鈴木　新悟	すずき　しんご
2年3組	岡部　航	おかべ　わたる
2年4組	高橋　優人	たかはし　ゆうと
2年5組	林　大夢	はやし　ひろむ
2年6組	細山　大喜	ほそやま　たいき
2年7組	大内　結斗	おおうち　ゆうと
3年1組	矢吹　桃子	やぶき　ももこ
3年2組	伊達　菜々美	だて　ななみ
3年3組	坂本　萩冴	さかもと　しゅうご
3年4組	遠藤　勇貴	えんどう　ゆうき
3年5組	影山　慶人	かげやま　けいと
3年6組	大越　友弥	おおこし　ともや
3年7組	吉田　伊吹	よしだ　いぶき

東照手記

2年前の秋、中学校最後の文化祭へ向け準備が始まった。放課後は毎日のように文化祭準備を進めた。中学校の文化祭では、山車やクラス旗、大うちわ、はちまきなどを班ごとに分かれ作成した▼私は、はちまきを作成する班になった。クラス30人と担任の先生の分を6人掛かりで作った。はちまきは、クラスの雰囲気や好きなキャラクターなどを刺繍するのが普通だ。私のクラスは、毎日楽しく笑顔が絶えないクラスだった。そのため、はちまき中央には「楽笑」の2文字を刺繍した。はちまきの色はクラス内で相談し、青色に決定した。また、それぞれ自分の名前のイニシャルを取ってはちまきの端に刺繍をすることにした▼毎日18時半まで学校に残り、刺繍をし続けていた。班の中には、親や祖母に協力してもらい、みんなのために活動している人もいた。私は針で縫う作業が苦手だった。そのため、足手まといになると感じていた。仕事の進み具合も他の人と比べて遅いことで悩んでいた。そのとき、班の友達が「絶対できる。焦らず頑張ろう」と声をかけてくれた。この言葉が原動力となり、私は内心で悩んでいたことが一気に晴れた気がした▼文化祭2日前に差し掛かったとき、ようやくはちまきの刺繍を終えることができた。クラスのみんなに渡すと「デザインや色合いがすごくいい」と好評だった。友達からの何気ない言葉がうれしかった。何よりも苦手意識を持っていた刺繍が上手だと褒められたことが心に響いた▼3年に1度の宇宙祭の準備は大詰めに差し掛かっている。余裕のない中でも、クラスメイトにかける何気ない言葉を意識して、宇宙祭を「絶対成功させる」という思いで準備していきたい。（冬凜）